

みんなでトライ！公民館等職員必要課題研修

～ 地域における必要課題の解決を目指して～

R7・9・3（水）
浜田合同庁舎

【講義①】安心して暮らし続けるための地域づくり～地域を捉える4つの視点～

島根県中山間地域研究センター 主任研究員 東 良太氏

講義資料より

日本100年の4大変化と地域社会の現状

～私たちを取り巻く環境の中で大きく変化したもの～
変化① 人口（数） 地域で暮らしている人の数が減った
変化② 年齢構成（中身）若い人が減って、お年寄りが増えた
変化③ 地域社会（空間）移動手段が増えて、行動範囲が広がった
変化④ 世帯 ≠（家族）多世代同居が減って、世帯が小さくなった

集落活動の現状と未来

現在できていることが今後難しくなる活動が増えてくる

■現在実施できているが、5年後も実施できている
常会、草刈り、集会所管理など

■現在実施できているが、5年後は実施が難しい
運動会等、高齢者見守りなど

■現在も5年後も実施が難しい 鳥獣対策、除雪、移動支援など

ふるさと調査から見えてきたこと

・地域には他出子（※）・関係人口が多く存在することがわかった
・さまざまな事情を抱えていて、帰ることができない人が多数存在している
・帰ることができない人も、地域への思い・愛着・貢献意識を持っている人が多い
・すぐにUターンや将来的な移住定住に結びつかなくても、他出子・関係人口とのつながりを維持・拡大する重要性
・地域側と他出子・関係人口側双方の「できること」、「助けてほしいこと」を把握し、関りの頻度や濃度を維持するとともに質を高めていくことが必要
・地域課題と他出子・関係人口のできることのマッチング促進
※他出子とは、故郷を離れ地域外に出ている子どものこと

これからの地域づくりに求められる視点

各主体へのアプローチ（市町村推進体制）

■アプローチ1 地域組織・住民
・現場支援を通じた地域のニーズ把握と行政等各課のマッチング支援

■アプローチ2 他出子（出身者）
・他出子のできること・地域課題のマッチングへ向けた情報発信支援

■アプローチ3 次世代
・教育現場の負担を地域がサポートするとともに、地域×学校で活気創出

■アプローチ4 関係人口
・関係人口が地域の可能性や気づきを与えるきっかけとなってくれる

■アプローチ 市町村推進体制
・部署や組織を超えた分野横断の情報共有・推進体制の構築が急務



※個別バラバラではなく、分野横断・部局関連携を通じた推進体制の構築が必須

【講義②】地域づくり×防災～普段からの支え愛の仕組みづくり～

災害の捉え方・備え方

■災害とはどのような事態・状態か

【自然災害】
地震 洪水 土砂崩れ 土石流 風害（強風・竜巻）
津波 豪雪 高温（熱中症） 火山 熊など

地 震：いつ起きるか全くわからない

風水害：ある程度、発生が想定できる

【人為災害】
交通事故 火災 詐欺 不審者 空き巣 感染症 停電など

【防災（支え愛）の取組の目的】
住民誰もが互いに声を掛け合い・助け合い、普段も災害時も安心して暮らすことができる地域のなること

■みんなの命を守るために事前の準備を！
【これまで】
自助（市民力）
一人ひとりが自ら取り組むこと
公助（行政力）
国・県・市町村など
共助（地域力）
地域や身近にいる人同士が一緒に取り組むこと

これまでどおりの（左図）考え方・対応では十分な対応ができない可能性が高い！
↓
最も頼りになるのは地域住民による協力体制

普段からの支え愛の仕組みづくり（事例）

■「支え愛マップづくり」（地域づくり×防災）
・マップづくりは手段であって目的ではない（過程が大切）
・防災だけではなく日常生活の困りごともお互い出し合う

・集いの場を通じて、地域課題の把握・共有
※防災を入口に➡地域のつながりの確認・強化
発展・波及の矢印が地域づくり、防災（の双方）に影響しあっている

【演習①】地域課題「必要課題」の見極め～身近な課題の解像度を上げる・その先を考えるヒント～

地域を捉える4つの視点

■課題をどのように捉えるか

①◎「課題認識する力」△「課題設定する力」×「課題解決する力」
※課題解決するために課題設定する必要がある。課題設定するために課題認識する必要がある
・自分たちだけで解決しようと思わなくていい（助けを借りることも大切）
・問題や課題は外部からはよく分からない

②「問題」や「課題」があることは悪くない
・「問題」「課題」は人がつくるもの
・逆に「理想」があるから「成長」できる可能性がある

③楽しさ・好奇心・探求心・充実感
・「連帯感・一体感」は行動している結果から得られる
・口だけでなく身体を動かさないと、アイデアも出てこない
・「合意形成」だけに縛られないようにしないと進まない（100%の賛成・合意はあり得ない）

重ね合わせの重要性

※複数地区で取り組むポイント

ポイント① 地域を重ね合わせる（複数地域）
・事前準備の省力化や役割分担を明確にできる
・地域を跨いだ連携の誘発

ポイント② 分野を重ね合わせる（分野横断）
・防災、農業…重ねられる部分は積極的に重ねる
・活動の省力化・新しい参加者による発見

ポイント③ 行事を重ね合わせる（負担削減）
・新しい行事をするのではなく既存行事の活用
・現在の活動+αの手の届くところから実施

■活動の重ね合わせに向けて

ないものねだり→あるもの探し→あるもの磨き（+繋ぎ）

活動することで元気になっていく（楽しくないと続かない・無理があると続かない）

【演習②】安心して暮らし続けるための地域づくり

グループで話し合われたことの一部を紹介します

午前中の講義「地域防災」を切り口として、それぞれの地域の「必要課題」について考え、グループで話し合いながら課題解決の糸口を見つける。

① 自館・センター等で取り組む必要性が高いことはどんなことですか？

② ①について、困っていること・一緒に考えたいことはどんなことですか？

グループ内で出た解決の糸口

主体的な若者を増やす

若い方が事業に参加してもらえるには？

企画から参加してもらう

子どもを巻き込んだ事業を考える

地域住民の防災意識を高めること

防災イベントへの参加者（特に大人）を増やすには？

急に防災といっても無理なので、日頃から少しずつ機会を持つ

楽しそうなイベントを企画して、その中に「防災」を盛り込む

世代間ワークショップからの地域住民ワークショップ

若い方が事業に参加してもらえるには、どうしたら良い？

住民が集って話し合える場の設定

楽しい事業づくりの工夫



グループ内で困っていることなどを、一緒に考えアドバイスする



他のグループの内容を見てみよう！



【ふり回りから】今日の学びをキーワードで



- ・防災も地域のコミュニケーションから
- ・重ね合わせ 今あるものにどう防災を重ね合わせるか
- ・集って話し合う場づくり
- ・「人」でつながる

- ・考え方を変えてみる
- ・多様な方面でのつながりが大事
- ・その気にさせる
- ・楽しくする工夫～今ある事業の中で



【アンケートから】

- ・講義は自館の活動と比べて、どうすべきか考えやすい内容だと感じました。
- ・「コウモリの目」の視点を持って、これからもセンター事業に役立てて行きたい。
- ・講義は地域の現状と重ね合わせて聴く事ができ、課題の突破口が見えたように思う。
- ・防災について改めて考える機会をいただき知識を深めることができました。また、他地区の方ともお話ができて新鮮でした。
- ・何か活動する為にもコミュニケーションが大事だと思った。
- ・午後のグループワークで、他の地区の話が聴け一緒に考えることができ、有意義な時間になった。
- ・講義が土台にあり、グループワークで特に実りがあって良かったです。
- ・グループでのディスカッションが日々の活動で役立ちそうです。
- ・他市や地区の話を聞かせていただけて、大変参考になりました。また頑張ろうという気持ちになりました。